

今月の聖句

『あなたの御言葉は、わたしの道の光
わたしの歩みを照らす灯。』

詩編 第119編 105節

◎3月の予定

2日(木) 卒業遠足(中3)
6日(月) 特別時間割期間(〜17日)
ステパノカップ(陸上)

8日(水) ステパノカップ(サッカー)

9日(木) ステパノカップ(バレーボール)

10日(金) ステパノカップ(バスケットボール)

16日(木) 給食終了

17日(金) 3学期終業礼拝

教職員協議会

20日(月) 卒業礼拝式予行

21日(火) 卒業礼拝式

◎4月の予定

6日(木) 一学期始業礼拝

7日(金) 入学礼拝式・在校生自宅学習



日々の生活

学年末も近づき、各クラスまとめの時期に差し掛かっています。この一年を振り返り、新学年に向けての準備を行う様子が多く見られます。そんな日々の何気ない瞬間をいくつか掲載させていただきました。ぜひご覧ください。



◎今月の行事から

○ステパノカップ

三年ぶりの開催となる今年は、三月六日(陸上競技)、三月八日(サッカー)、三月九日(バレーボール)、三月十日(バスケットボール)の予定で行われます。感染症対策として、事前に希望をとり、観覧人数を制限しながら行います。



○卒業生を送る会

小学校は三月十五日、中学校は三月十六日に行う予定です。感染症対策を立て、心温まる時間を過ごしたいと思います。

○三学期終業礼拝

児童・生徒一人ひとりが精一杯の努力をし、三学期終業礼拝の日を迎えることができます。保護者の皆様をはじめ、ステパノ学園に関係する方々が支えてくださるからです。心より感謝を申し上げます。

○卒業礼拝式

感染症対策として、今年度も小学校と中学校の式を別々に執り行います。

小学校10名、中学校18名、合計28名のステパノっ子を送り出します。心を込めた準備を行い、子ども達の門出を祝いたいと思います。今年是在校生代表による『卒業生を送る言葉』も行います。保護者参列は、卒業生の保護者のみ、各家庭2名の参列でお願いいたします。どうぞご理解とご協力をお願いいたします。



学校長 佐藤 紀明

《夢を持ち続ける》

私の幼稚園の卒園アルバムに、「おおきくなったらバスのうんてんしゅになりたいです」と園児の頃の『将来の夢』が書かれています。バスに乗るのが好きで、母と買い物に行く時は必ずバスに乗って出かけました。その当時、今のような音声アナウンスではなく、運転手がマイクを使ってアナウンスしていました。「運転手の〇〇です。本日もご利用いただき、誠に有難うございます。安全運転に努めます」とアナウンスがあり、「右よし、左よし、前方よし、後方よし」と指さしながら安全確認を出発します。この運転手のアナウンスや安全確認が、とてもカッコよく見えて家でも帽子を被り真似していたことを思い出します。小学生になってからは、パイロット、医者、科学者、プロ野球選手など『将来の夢』は次々に変わりました。ただ、『将来の夢』をいろいろ持ったことは、良かったと思っています。夢を追い続けることは、人生を豊かにし、自らの成長に繋がります。夢が叶わなくても夢は、自分を動かす原動力にもなりました。夢を叶えるためには、どうすれば良いのかを考え、小さなことでも地道に努力を続けることの大切さは、夢を持つことによって気付きます。だから『夢』を持ち続けて欲しいです。

《誰からも愛される人に》

次のような人は、誰からも愛されます。○いつも笑顔の人（笑う門には福来る）笑顔は自分だけでなく、周りも幸せにします。いつも笑顔でいることは、難しい時もあると思いますが、笑顔は人間だけができる表情であり、いつも笑顔でいて欲しいと思います。○礼儀正しい人（気持ちの良い挨拶、返事）礼儀正しい人は、挨拶がきちんとできます。いつも落ち着いていて、感情的にならずに、常に冷静な判断ができます。正しい言葉遣いをして、相手の立場になって考えてくれる。そんな礼儀正しい人になって欲しいです。○感謝できる人（「ありがとう」が大好き）感謝の気持ちを常にもつていて、それを言葉にしてきちんと伝えることができる、周りの人達も気持ち良いものです。何でもやってもらって当然とは思わないことが大切です。○素直な人（「ごめんなさい」）素直な人は、嘘をついたり、人を惑わすことはしません。偏見を持たずに、ありのままの相手を受け入れる。真つすぐで正直な人です。○一生懸命頑張る人（何事も全力で取り組む）頑張る人は、常に目標を持っています。目標に向かって努力します。現状に満足せずに、今よりもより良くしようと向上心があります。真面目に、一生懸命に頑張ることが大切です。○思いやりのある人（相手のことを思う）相手に寄り添って物事を考え、常に自分ではなく、相手のことを一番に考えてください。

《恩送り》

「恩送り」という言葉を知っていますか。助けてもらったり、優しくしてくれた相手に何らかの形でお返しする「恩返し」ではなく、自分が受けた思いやりある行為を全く関係のない第三者に恩を受け渡していくものです。「恩返し」は、人から受けた恩を忘れず、いつかその恩に報いること、返すことです。基本的に恩をくれた人にお返しする一対一のやり取りが恩返しです。一方、「恩送り」とは、誰かから受けた恩を直接その人に返すのではなく、別の人に送ることです。一つの優しさや助けを受けたとしても、その喜びや感謝を送る人数に上限はありません。「恩送り」は、最近作られた言葉ではなく、江戸時代頃には使われていたという説もあるようです。恩送りは、できる範囲で人に優しさを配ることを目的としています。長い人生の中で、人に何も与えられない時期があるのは当然のことです。自分の心に余裕がある時にやればよいのです。別に小さなことでも構いません。あなたからの恩送りを受け取った相手が、同じように何人もの人に恩送りをします。その温かな思いやりが次々と無限に繋がっていく、学校、周りの社会といった集団にきつと良い人間関係をもたらしていくと思うのです。自分が優しさを受けて嬉しかったことを、別の誰かに、見返りを求めずにしてあげる。「恩送り」を実践できる人になってください。卒業おめでとう！

大齋節によせて

中学校教頭 田中 圭史

教会の暦では、今は大齋節といえます。イエス様が荒野で試練にあつたことに倣い、節制と克己に励む期間です。それは日頃の自分を見つめ直し、イースターを迎える準備をするという、とても厳かな期間なのです。本学園ではこの期間中に児童生徒に『大齋克己励み表』が配られ、目標を定めて生活します。一人ひとりが克己の意味に気づき、この期間が彼らの成長に繋がることを祈っています。

「克己」は文字通り己に克つことです。これがとても難しい。正しいことやなすべきこと、また反対にしていけないことも、頭ではわかっているけれど、なかなか行いがその通りになりません。部分的にはできて、全方位的には達成しがたい。それは、子どもに限らず大人も同じです。

ところで、教育の目標は何かと訊かれたら、どのように答えるでしょうか。勉強ができるようになったり、テストで点が取れるようになったりすることかもしれません。あるいは他者とのつきあいかたを学ぶとか、よい将来を掴むためとかもあると思います。短期目標、長期目標と考えれば、どれも大切な目標です。

先日、あるインタビュ記事で「教育の目標は自律である」というのが目に留まり、その通りだと思いました。その先生の現場とは

状況が異なるかもしれませんが、場所も環境も越えて共通する内容なのだと思います。私がいままでに接してきた子どもたちの中には、家ではずっと勉強に時間を割いている子どもがいたり、逆に学習面は難しくても生活面では率先して指示を出し、てきぱきとこなす子どもがいたりしました。対極にあるような、この二つのタイプはどちらも大切な良さをもっています。その上で、彼らがより成長するために、学習や生活面で「自分で考えて行動する」ことを身に付けてほしいのだと改めて思いました。他者と生活をするときに受け身にならないことや、自分中心に物事を考えないこと、見通しを立てて集団で行動することは克己に通じるものがあります。自律の一つの形として、大切にしていきたいと考えています。

また、別の観点からいうと、大人が子どもたちの行動を待たず、まわりが代わりに準備したり、言葉を補ったりして、子どもが主体的に行動する機会を奪ってしまう場面があります。これでは子どもが自分で何かできるようになろうという意識が芽生えません。「自律」というのは他者に管理されて行動するのではなく、自分自身で考えて行動できることです。学習でも生活でも、目標を与えて子どもがどのように達成することができるか共に歩んでいく姿勢が鍵となります。時間がかかりますが、忍耐をもって接することが大切です。

漢字が書けたり計算ができたりすること、

テストの点が取れることだけが教育の目標ではありません。教科で学ぶ内容は手段であると考えています。では、勉強しなくて生活力があればよいかというと、そうではないこともわかっていただけたらと思います。子どもたちは教科学習の中でコミュニケーションをとるための必要な知識、技能、表現を学びます。表現や思考のためには国語力が欠かせません。論理的に物事をとらえるためには数学の力が必要です。それらを訓練することによって、社会生活の中で望ましい人間関係を築きあげ、より良い将来を歩む土台をつくっていきます。他者との関係で、もう一つ忘れてはならない言葉があります。

聖書に「霊の結ぶ実は、愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」（ガラテヤの信徒への手紙5章22〜23節）とあります。私たちは物質的にも精神的にもこの「節制」ができていくでしょうか。パウロは霊の実のより先に、肉の業について触れています。そねみや利己心、不和、ねたみは、私たちの心に入り込みやすいものです。ですが、イエス様の愛、神様の愛に生かされている私たちはこれらを退け、霊の実を結ぶことができるはずで、そして、この霊の実を調和させ、一つにするのが九つ目の「節制」です。

お互い自己中心の生活を改め、他者と生活することの意味を考え、共に生活する場所を大切にしたいと願っています。

からし種

小学校6年主任 上戸 基夫

今年も三月を迎え、小学校生活の節目を迎える季節となりました。特に卒業学年となると、残りの日数に追われ、落ち着かない日々を送ることになります。きつと学校は「師走」よりも「弥生」の方が忙しいものだと思います。余談ですが、「弥生」は「いやおい」が変化していったもので旧暦の三月の意味だけではなく、草木がいよいよ生え茂る様子も表しているそうです。

この三月に小学校六年生十名が小学校を卒業していきます。高学年をコロナ禍で過ごすことになり、マスクが当たり前になり、行事等も思っているようにできなかつた学年です。十人の卒業生たちには、今どのような思いが心の中を巡っているのでしょうか。

さて、「からし種のたとえ」という聖書箇所があります。マタイによる福音書十三章三十一節です。どんな種よりも小さいのに、成長するほどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。と書いてあります。私も実際からし種を育ててみたことがあります。その種の小ささは驚くようなものでした。ですが実際に撒いてみると、ぐんぐんと成長して、簡単に私の身長を追い抜いていきました。まさに聖書にある通りの大きな成長でした。

前回、私はステパノだよりの原稿で「種をまく人」について書きました。日本とエルサレムでの種の撒き方の違い。そしてその育て方に触れたところで「すべてが揃っている土壌」にまかれる種の様な教育がいいのか、多少不便であっても「共に耕し育てる」土壌がいいのか。そしてそれを教育になぞらえ、全てが準備されて整っている教育と、共に耕し育てる教育のどちらが良いのかを書きました。私がこの一年間、子ども達と一緒に過ごしてきたその結果が今まさに問われる時であり、自分自身への答え合わせのような気分です。さて、小さなからし種の結果はどうだったのでしょうか？

内気だったが積極的に自分から動けるようになってクラスを引っ張ってくれるようになった子。自分から積極的にお手伝いしますと言って行動を起こし毎日体現してくれた子。自分が得意なものを使って、クラスみんなを楽しませてくれた子。クラスの子をいつも気にかけて、ちよつとした変化を読み取って心配や応援をしてくれる子。少しずつ自分から話しかけてくれ、気持ちも教えてくれるようになった子。何事にもめげず、常に積極的に動いてくれる子。なかなか私の名前を呼んでもらえなかつたけれど、ほんの数回でも名前を呼んでくれ、知らないことを熱心に教えてくれた子。自分から苦手なものにチャレンジをして、それを次々に克服し、日々中学に向けて頑張った子。常に淡々と、でも大好きな

ことには人が変わったかのように元気に取り組んでくれる子。クラスの誰よりも常に先を読んで行動する子。クラスの誰もがこの一年でからし種のように大きく成長することができました。一人ひとりが成長しようとする力に溢れ、努力した結果です。毎年子ども達の成長を見ていると、成長は体の変化だけではなく、見えない心の成長がとても大きいものだと思います。心の成長が行動に現れ高学年らしさをより際立させたものにするのです。そして今年の十人も自分を大きく育て小学校を卒業していくのでしよう。

あと数日に迫った卒業式。きつと受け取る卒業証書は嬉しいものですが、中学の卒業証書、高校の卒業証書、そしてその先の様々な成長の証によって、どんな下の方に押しやられていく事でしょう。ちよつと地層ができるようにどんどんと・・・そのうち意識しないと開かない卒業証書になると思います。ですが、下の方に押しやられても、子ども達一人ひとりの根っこになっっていることには変わりありません。六年間という長い間に小学校で「撒かれた種」は、日々生活の中で共に耕され、「大きく成長」していきました。そして、次は中学校での「種が撒かれ」「大きく成長」していきます。小学校での卒業は小さいものかもしれませんが、ですが、これからの人生の大切な根っこになる部分です。コロナ禍に撒かれたからし種の実が大きく成長するのを願ってやみません。

今年度の中学校3年生担任としての私の最初の仕事は、学級通信のタイトルを決めることでした。今年のタイトルは「Step up」と決めました。中学3年生一人ひとりが階段を上るように一歩ずつ成長し、自分の夢や目標に近づいて達成して欲しいという願いを込めました。ステパノでの最後の一年を充実したものにしてもらいたかったのです。一文字毎に文字色が違うのは皆さんの個性を発揮してもらいたいという願いを込めました。4月当初の私の学年通信のタイトルに込めた思いはこのようなものだったのです。さて、中学校3年生の皆さんにとってどのような一年だったのでしょうか。

中学3年生はとても忙しく・とても充実した一年間です。各行事では後輩達と協力してリーダーとしての活動があり、一方で2月の受験に向けて準備があります。でも、そういった中でこそ出来た経験がたくさんあったはずです。

代々聖ステパノ学園中学校3年生は後輩たちに指示を出し、行事の準備を中心となって行います。プレッシャーを感じる生徒もいました。その責任を果たそうと皆で協力し乗り切ることが出来ました。自分の知識を活かし意見を出すことが出来る生徒、後輩への気

配りをする事が出来る生徒、時間を見ながら進行をスムーズにできる生徒、準備を率先して出来る生徒などそれぞれの良さを生かすことが出来ました。さらに今年も感染対策に十分注意しての活動を行う事が多かったですが、中学3年生での話し合いでは様々な意見が出され、とても前向きに進める事が出来ました。

今年の中学3年生が入学したのはちようど緊急事態宣言が行われた頃でした。学校は休校になり不安な生活を送ることを余儀なくされました。それから、登校出来るようになったのは2カ月遅れの6月からです。行事を大切にしてきた聖ステパノ学園も、内容を変え実施した行事、残念ながら中止となる行事もありました。現在では感染対策を考えそれまでとは行事の形を変え実施できるように皆で知恵を絞って行っています。当時は楽しみにしていた行事が出来なくなり残念に思っていた生徒も中にはいましたが、今では色々な意見が生徒から出て、以前よりも活発な議論が増えました。私自身もそれに励まされ、新しい行事のあり方を前向きに考えるようになりました。中学3年生は感染対策をしての中学校生活になりました。今年実施した広島・姫路の修学旅行が中学校初めての宿泊学習となっていました。折り返しですが、折り鶴の準備など事前準備から皆で協力して行い、修学旅行を充実したものにすることが出来ました。

私は昨年度末に2年連続の中3担任と聞いて

た時はとても驚きましたが、皆さんと一緒に1年間を過ごせてとても良かったと思っています。話し合いの時の出される様々な意見がとても興味深かったです。クラスでは時に厳しく注意したこともありましたが、それからはからの高校生活をしっかりと送ってもらいたいと考えての事でした。今年一年間たくさんの経験を活かして今後の充実した生活を送ってもらいたいと思います。陰ながらお祈りしています。

2月3日節分、2月4日の立春を終え、春が近づいているのを感じます。まだ寒さを感じる時もありますが、日の光が強くなっているのを感じ、ふと見上げると木のつぼみを見る事が出来ました。私が受験生だった頃、母から「あのつぼみも花が咲くのだから、今のあなたの頑張りもきっと花開く日が来るよ。」と言われたことを思い出しました。こういった何気ない一言が心の糧になる事があるようです。皆さんが過ごしたステパノでの3年間にもたくさん経験があったと思います。良い思い出もほろ苦い思い出もこれからの皆さんの生活の支えになってくれるはずですよ。自分に自信を持って、たくさん知恵を絞って、壁を乗り越えていって欲しいと思います。



【小学校】
卒業を迎えるにあたり、6年間を振り返って一句詠んでみました。

ステパノ小 生き物いっぱい

ゆめいっぱい



K T

帰る時 毎日一緒 お友だち

H R

上戸先生

算数を おしえてくれて ありがとう

S A

運動会

作りすぎたら

ピヨ祭り

C R

スポーツは バスケットと野球で

たのしいな

M M

久々の ステパノまつり

良かったね

S P

友達は 中学校で

できるかな？

S S



みんなでね

修学旅行

楽しかった

I N



小学生生活は

どれもすてきな

最高の思い出

K R



4月から



中学生の
始まりだ

K K

【中学校】
卒業を迎える中学三年生たちの言葉です。

私のこの学校での一番の思い出は、中二の時の遠足です。あの時は晴れわたる空に、気持ちのよい自然があり、仲間と遊んで最高でした。

A A

僕にとっての思い出は、運動会、修学旅行、クリスマス祝会などです。これらの行事は仲間達と共に最後まで楽しみました。そして先生方、今までありがとうございます。聖ステパノ学園に来て本当に嬉しいです。A K

僕の一番の思い出は、中三の修学旅行です。特に印象が残ったのは二日目の宮島です。宮島で楽しかった出来事は買い物でした。A T

正しいと思った事を意志を持って貫き通せるようになったことが一番の成長です。高校でも自分をしっかり持って頑張ります。I N

ステパノ学園での思い出は運動会が1番心にのこっています。中学生だけでなく、小1から中3まで力をあわせたからです。O S

私は、この四年間が長くもあり、短くもあらると感じました。そして先生方が教えて下さった事を今後活かしたく思います。今私は幸せです。

O M

僕は九年間ステパノ学園で過ごさせて頂きました。見守り、支えて下さった全ての方に感謝しています。ありがとうございます。

K F

私の3年間は、様々な人に支えられた。親や担任の先生方に高校に向けて寄り添ってもらい、他の先生方も勉強で支えてくれた。広島の修学旅行では、過去の悲惨な出来事について学んだ。全ての経験を基に、将来社会貢献をしたい。

K T

私はこの学校で生活してきた、できないことが多かったが、先生方から助けられ、できるようになり、感謝の気持ちでいっぱいです。今までありがとうございます。

K H

桜咲く季節を迎えようとしている今、私は多くのことを学んだことを実感します。行事では工夫や思考を凝らし、先輩から、先生から、友人から大切なことを学びました。時には楽しみ、努力し、叱られ、時に助け合う。

そういう充実した学校生活でした。悔いはありません。出発の準備はできています。S A

私はこの学校で手厚い英語の指導をして頂き、英検準二級まで取得することが出来ました。今は大学を目指した勉強をしています。本当にお世話になりました。

T T

小五からステパノに入ってこの五年間で、いろいろなことに挑戦して、前よりも自分に自信が持てるようになった。

M M

私は聖ステパノ学園で過ごした3年間で勉強をすることの大切さを学ぶ事ができたと感じています。初めのころは、提出物は出さなくても問題はないと考えていましたが、途中から高校受験のためにそれは必要なことだと気付かされました。このことに気付けたのは、聖ステパノ学園ですごせたからこそだと思えます。なので、私はこの学校の人たちに感謝しています。

M K

中三は本当に良い人しかいません。一人一人が相手を受け入れる優しさを持っています。一緒にクラスで良かったと思います。

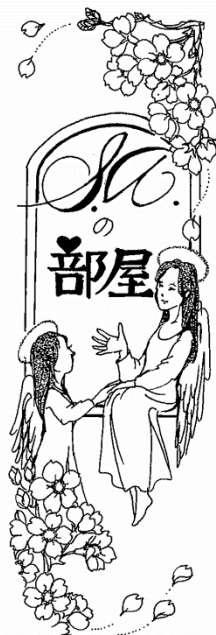
M A

私の将来の夢は、自分の果樹園を持つことです。何に対しても夢を叶えることは難しいことです。ですから、もっと頑張りたいです。

M M

ぼくは最初キリスト教のことをあまり知らなかったけど、咲間先生のおかげでイエス様の人生について知れて、イエス様はすごいと思った。あと、お母さんにも感謝です。

Y K



今冬、大磯町役場の正面玄関には、大きな横断幕が掲げられています。

「祝 新十両昇進 湘南乃海関 谷松将人 大磯中学校出身」

二〇二三年一月に開催された大相撲初場所から、新十両に昇進された湘南乃海桃太郎関は、大磯町のご出身で、大磯小学校、大磯中学校で学び、相撲は未経験ながら多くの部屋から誘いを受け、厳しい稽古で知られる高田川部屋に入門されたそうです。

新十両昇進の記者会見では、初土俵から九年弱での昇進について、「長かった」と振り返る一方で、「早さではなく、最後にどこにいるかが勝負だ」と指導して来られた師匠・高田川親方（元関脇安芸乃島）の言葉が心の支えであったと明かしていました。そして、「我慢強くて、かっこいい力士」を志し、「横綱を目指す」と抱負を語る真摯な姿が大変印象的でした。忍耐強く積み重ねてこられた長年の研鑽が大きく開花し、新十両としてのデビュー場所では、十二勝三敗の好成績で勝ち越し、身長一九三cm、体重一八六kgの体格を活かして活躍され、一層期待が寄せられます。

相撲界では、十両への昇進が大きな節目になるそうです。十両以上の力士は、「関取」と

呼ばれる一人前の力士として、紋服の着用、「大銀杏」の結髪、絹の「締め込み(まわし)」や、「化粧まわし」の着用、「土俵入り」への参加が許されるのだそうです。また、「付け人」が配されて個室が与えられ、月給や報奨金が得られるようになるそうで、大きく環境が変わります。同時に、関取としての責務は大きく、常に成績を問われる勝負の世界の厳しさも増していきます。

小学生時代は、困っている友達を手助けする心優しい身長一八九cmの少年で、助けた友達への保護者から感謝を伝えられることも多くあったそうです。中学卒業までは野球に打ち込み、野球で培った横の動きは、今も、土俵際のの回り込みに活かされているそうです。

新十両昇進祝賀会で贈られた化粧まわしには、本校の課外活動の場でもある大磯の海と富士山を描いたものもあり、親しみを感じられる大きな存在感の湘南乃海関。彼の中学卒業時の決心が、二四歳の現在の実りへつながったように、今春ご卒業の皆さんも、時を経ての実りに希望を寄せて歩まれますようお願いいたします。ご卒業おめでとうございます。



在校生保護者 内村

《表彰》

○実用英語技能検定 五級

小六 清水 詩夢

○第133回 日本語ワープロ検定 四級

中一 杉本 翔梧

○2022年度 マラソン大会

小学校1・2年生 1.2キロの部

第1位 佐藤淳 第2位 横松 第3位 中嶋

小学校3・4年生 1.7キロの部

第1位 佐藤 第2位 吉永 第3位 大木

小学校5・6年生 2.2キロの部

第1位 衣川 第2位 清水 第3位 入月

中学校男子 3.4キロの部

第1位 大城 第2位 草次 第3位 澤村

中学校女子 3.4キロの部

第1位 村田 第2位 相原 第3位 三浦

今年も無事、卒業の春を迎えることができました。毎月原稿をご執筆下さった先生方、そして読者の皆様、印刷の紅谷プロセス様、一年間ありがとうございました。そして来年も、ステパノだよりをどうぞよろしくお祈り致します！（-）

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

校長 佐藤 紀明

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-611-1298

FAX 0463-611-9739

http://www.stephen-oiso.ed.jp
二〇二三年三月十五日（水）発行第274号